

高知工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	社会科学Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	B3005		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	SD 基礎教育・一般科目		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	前期：『新現代社会』（帝国書院）、『クローズアップ現代社会』（第一学習社）。後期：『新世界史』『新世界史ノート』（山川出版社）				
担当教員	江口 布由子,松浦 真衣子				
到達目標					
国際社会における技術者のあり方を考える。諸外国の政治・文化・慣習などを尊重し、国際社会と地域の結びつきを前提に、あらゆる立場の人々を豊かにする技術・制度とは何かを考えていく。 最終的には共生社会実現に役立つ技術・制度を具体的に構想していく。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	外国の歴史・文化・慣習などを理解し、共生社会とは何か考えることができる		諸外国の歴史・文化・慣習などを理解できる		外国の歴史・文化・慣習などを理解できない
評価項目2	国際社会で求められる技術とは何かを考え、具体的な構想を提示することができる		国際社会で求められる技術とは何かを考えることができる。		国際社会で求められる技術とは何かを考えることができない
評価項目3	何様々な地域の課題を理解し、あらゆる立場の人々を幸せに出来る技術とは何かを具体的に考えることができる		様々な地域の課題を理解できる		様々な地域の課題を理解できない
学科の到達目標項目との関係					
(A)					
教育方法等					
概要	前期は国際経済を中心に学習を進める。グローバル化していく国際社会の課題（先進国の人口減少/途上国の人口爆発、地域間格差、各国の働き方の違いなど）を見つけ出し、その課題を解決する技術・制度を考えていく。				
授業の進め方・方法	提出物、定期テストなどにより成績をつけていく。 前期は1年生の現代社会で使用した『新現代社会』（帝国書院）、『クローズアップ現代社会』（第一学習社）を使用する。 後期は2年生の世界史で使用した『新世界史』『新世界史ノート』（山川出版社）および適宜配布するしように利用する。 * 進度により、シラバスの内容を一部変更する可能性があります。				
注意点	（成績評価の基準・方法） 試験の成績を60％、平素の学習状況等（課題・レポート・ノート等を含む）を40％の割合で総合的に評価する。学期毎の成績評価は前期は前期中間と期末、後期は中間と期末の評価の平均で評価する。学年の評価は前学期と後学期の評価の平均とする。なお、後学期中間の評価は前学期末、後学期中間の各期間の評価の平均とする。技術者が身につけるべき専門基礎として、到達目標に対する達成度を試験等において評価する。 （事前・事後学習） 事前学習として普段から新聞やニュースをチェックし、現代社会の動きを確認すること。また、事前に指定した教科書の該当部分を熟読すること。 事後学習として授業内で指定した課題を提出すること。次回の授業で回答を配布するので、自ら答え合わせをし、理解している部分としていない部分を確認すること。 （履修上の注意） 社会科学Ⅱの前半は『現代社会』で学習した内容が、国際的な観点から再度紹介される。改めて『現代社会』の復習をしておくことが望ましい。後半は『現代社会』をもとに『社会科学I（世界史）』で学習した内容を政治的観点から捉え直す。したがって『世界史』の内容を改めて確認しておくことが望ましい。また学年末にはこれまでの知識を総合的に組み込んだ小論文作成の課題に取り組む。				
授業の属性・履修上の区分					
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	本授業の概要、注意点を説明する。	
		2週	現代史概観	前年度の学習を踏まえ、第二次世界大戦後の世界で冷戦が生じた時代背景を理解することができる。	
		3週	現代史概観	前年度の学習を踏まえ、第二次世界大戦後の世界で冷戦が生じた時代背景を理解することができる。	
		4週	国際経済のしくみ	国際経済に関する基礎的な知識を身につけ、保護貿易と自由貿易の違いを自らの言葉で説明できる。	
		5週	国際経済のしくみ	国際経済に関する基礎的な知識を身につけ、保護貿易と自由貿易の違いを自らの言葉で説明できる。	
		6週	国際経済の枠組み	国際経済にはどのような制度やルールがあるかを学習し、世界を平等にする貿易とはどのようなものか、自らの意見を持つことが出来る。	
		7週	国際経済の枠組み	国際経済にはどのような制度やルールがあるかを学習し、世界を平等にする貿易とはどのようなものか、自らの意見を持つことが出来る。	
		8週	地域経済統合の行方	EUをはじめとする地域経済統合の現在を学び、何が課題となっているか、そして日本はその課題にどのように向き合うべきか自らの考えを持つことが出来る。	

	2ndQ	9週	地域経済統合の行方	EUをはじめとする地域経済統合の現在を学び、何が課題となっているか、そして日本はその課題にどのように向き合うべきか自らの考えを持つことが出来る。
		10週	グローバル化と自由貿易協定	グローバル化や自由貿易協定が進む背景を学び、その課題を自ら見出すことが出来る。
		11週	グローバル化と自由貿易協定一知的財産について学ぶ	グローバル化や自由貿易協定が進む背景を学び、その課題を自ら見出すことが出来る。
		12週	新興国の台頭	近年、急速な経済成長を続ける新興国とG7の関係を概観し、今後の日本の国際的な役割を認識することができる。
		13週	新興国の台頭	近年、急速な経済成長を続ける新興国とG7の関係を概観し、今後の日本の国際的な役割を認識することができる。
		14週	経済格差とその是正	経済格差や貧困解消のために必要なことは何か、自ら分析することが出来る。
		15週	経済格差とその是正	経済格差や貧困解消のために必要なことは何か、自ら分析することが出来る。
		16週	これまでのまとめ	これまで学んだ国際社会の課題から、自らがもっとも取り組みたい課題を分析し、課題解決までの見取り図を描くことが出来る。
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	後期の内容および注意点を説明する。
		2週	国際連合と戦後国際秩序（1）	国際連合の基本的な考え方を学び、説明することができる。また戦後国際秩序の形成を多面的に認識できる。
		3週	国際連合と戦後国際秩序（2）	国際連合の基本的な考え方を学び、説明することができる。また戦後国際秩序の形成を多面的に認識し理解している。
		4週	第三世界と超大国の動揺（1）	東西対立に収斂しない第三世界という存在の歴史的意義と東西の超大国の動揺を多面的に認識し理解している。
		5週	第三世界と超大国の動揺（2）	東西対立に収斂しない第三世界という存在の歴史的意義と東西の超大国の動揺を多面的に認識し理解している。
		6週	第三世界と超大国の動揺（3）	東西対立に収斂しない第三世界という存在の歴史的意義と東西の超大国の動揺を多面的に認識し理解している。
		7週	まとめ（1）戦後国際秩序とは	これまでの流れを概観しながら統計情報を用いて、国際社会の現状と抱える課題を自ら考察し分析することができる。
		8週	まとめ（2）戦後国際秩序とは	これまでの流れを概観しながら統計情報を用いて、国際社会の現状と抱える課題を自ら考察し分析することができる。
	4thQ	9週	冷戦終結と冷戦後の世界（1）	冷戦終結の過程とその帰結、および終結後の世界について多面的に認識し理解している。
		10週	冷戦終結と冷戦後の世界（2）	冷戦終結の過程とその帰結、および終結後の世界について多面的に認識し理解している。
		11週	国際社会の諸課題：グローバル化と紛争を中心に（1）	前期に学んだ経済グローバル化と現代のグローバル化した政治の一形態である紛争を構造的に理解し自ら考察することができる。
		12週	国際社会の諸課題：グローバル化と紛争を中心に（2）	前期に学んだ経済グローバル化と現代のグローバル化した政治の一形態である紛争を構造的に理解し自ら考察することができる。
		13週	新型コロナウイルス感染症の流行がもたらした国際社会の現状と展望（1）	新型コロナウイルス感染症の流行がもたらした国際社会の展望についてさまざまな視点からのデータを読み込み、考察する。
		14週	新型コロナウイルス感染症の流行がもたらした国際社会の現状と展望（2）	新型コロナウイルス感染症の流行がもたらした国際社会の展望についてさまざまな視点からのデータを読み込み、考察する。
		15週	新型コロナウイルス感染症の流行がもたらした国際社会の現状と展望（3）	新型コロナウイルス感染症の流行がもたらした国際社会の展望についてさまざまな視点からのデータを読み込み、考察する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後13,後14,後15
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後15

				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後15
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後15
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3	前15,後1,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	前1,前2,前6,前15,後1,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
		情報リテラシー	情報リテラシー	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を活用できる。	3	前6,前12,前15,後1,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	2	前15,後1,後8,後15
	分野横断的能力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	2	前15,後1,後8,後15

				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	前2,前6,前15,後1,後2,後3,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
--	--	--	--	--	---	--

評価割合							
	試験					その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	40	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0